

# 抽選会で大いに盛り上がる

## =平成6年度県支部総会=



平成6年度早稲田大学校友会鹿児島県支部総会が去る七月三十日(土)、校友七十四人が参加してチサンホテルで開催されました。



■発行  
早稲田大学校友会  
鹿児島県支部  
■住所  
鹿児島市金生町3-1  
山形屋本部秘書室  
☎0992-27-6310(代)



本年は、小山総長に代わり安藤常任理事、校友会から新たに代表幹事となられた中嶋代表幹事が出席されました。総会は松元支部長の挨拶と現況報告に続き豊山幹事長により総会議事が行われ、安藤常任理事、中嶋代表幹事のお話で無事終了しました。

総会終了後懇親会に移り、新入会員の自己紹介など和氣あいあいとした懇談となり、特に本年はMBCアナウンサーの城光寺剛君(S58年教育卒)の司会による抽選会が大いに盛り上りました。抽選の景品をご提供下さいました皆様

また今回新しく作成した会員名簿に広告を協賛して下さいました皆様、有り難うございました。

報告 事務局長 川畠 孝則

(S46年商学部卒)

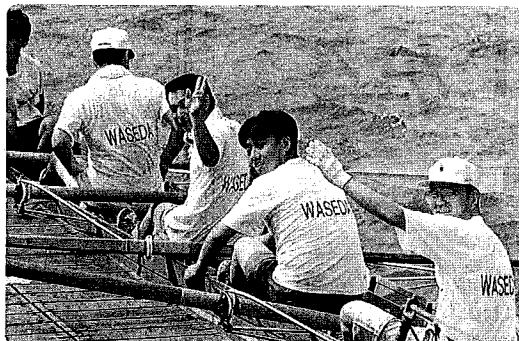
南生建設株 専務取締役



### 支部総会出席者

ア	始良 星	山山 切下	赤板 岩	良星 板	正辰 久	吉寿 真	治廣 美	進学	明孝	紀治	彰淳	徳美	一郎
カ	徹香 一	治廣 美	進学	儀道 友一	辰久	吉寿 真	良星 板	一龍	良一	立夫	哲孝	英昭	司昭彦
タ	大津 大	脇堂 原	尾上	岩田 加	原田 平	上原 平	川井 釜	木下	佐佐 佐	重篠 下	佐佐 佐	鈴木 真	玉田 田
シ	西山 大	原田 上	坂上	石藤 平	片上	坂上	川畑 田	木山 中	庄藤 佐	庄藤 佐	木山 中	森井 増	宮松 松
ス	脇堂 大	原田 大	尾上	坂上	坂上	坂上	川畑 田	木山 中	藤原 古	藤原 古	木山 中	吉田 增	吉田 松
ウ	原田 大	原田 大	坂上	坂上	坂上	坂上	川畑 田	木山 中	藤原 謙	藤原 謙	木山 中	吉田 増	吉田 松
エ	栗山 久	保久	栗山 保	栗山 久	栗山 保	栗山 久	川畑 田	木山 中	原田 月	原田 月	木山 中	吉田 吉	吉田 吉
オ	香西 栗	山香	西栗	栗山 久	山保	保久	川畑 田	木山 中	原田 月	原田 月	木山 中	吉田 吉	吉田 吉





# 川内レガッタ出場記

北薩稻門会事務局

坂屋立夫 (S49年法学部卒)



平成六年七月三十一日、日曜日、第四回川内レガッタに昨年に引き続き、早稲田・慶應のOBチームが登場した。昨年は地方では初めての早慶現役学生による本物の早慶レガッタエイトのレースが見られ、大勢の観客を集めた。その折にアトラクションとして早慶OBによるナックルフルアーレースがあり、両校の応援合戦等で花を添えた。

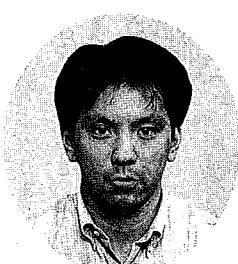
今年は鹿児島三田会、鹿児島稻門会、北薩三田会、北薩稻門会の四チームがナックルフルアーレースとなりました。早慶両校OBとも揃いのTシャツを作り、各チーム、大会前から熱心に練習を重ね、レスにかける意気込みが感じられた。

レース当日になり、鹿児島市、川内市、北薩方面から大勢の校友が集まり、出番運びと見守る中、少々風が強くスタートラインで戸

惑う艇もあつたが、午後二時五十分スタートを切った。各チームとも横一線の綺麗なスタートであつた。チーム成績は昨年に引き続き早稲田OBチームの圧勝である。

島稻門会チームが一步リードし、鹿児島三田会チームがゴール前必死に追い上げたが、そのままばららしいタイムでゴールした。二着

島稻門会チームが一步リードし、鹿児島三田会チームがゴール前必死に追い上げたが、そのままばららしいタイムでゴールした。二着



南日本新聞社編集局  
平川順一朗 (H2年法学部卒)

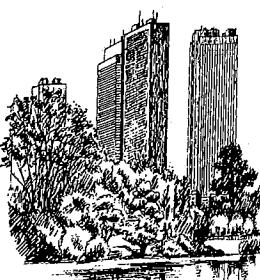
「あそこ〇〇はどうだった」といった細かい部分が思い出せないのだ。

まだ記憶の薄れる年ではない。

ただ、つい数年前まで濃厚に自分の中に残っていた大学生活の延長のような甘い気分が急速に薄れてきていることは確かなようだ。これは、喜ぶべきことなのか、悲しむべきことなのか。いちばんに思ひ出したのが、徹マン明けの西武新宿線のガラガラ電車と吉野家の朝定食とは情けないやら、おかしいやら。

東京の風景はちょっと見ない間に風景が大きく変わってしまうはずだが、大学や高田馬場の街周辺に限っては、ほとんど変化がなかつたせいかもしれない。街を歩く自分が旅行者やよそ者の気分ではないのが不思議な気分だった。

学生気分が薄れた今、「早稲田の街」は「元学生」をどう受け入れてくれるだろうか。



以下は鹿児島三田会、続いて北薩稻門会、北薩三田会という結果であつた。チーム成績は昨年に引き続き早稲田OBチームの圧勝である。

その後スプリングマンテン会館で打ち上げ会が開かれ、エールの交換や応援合戦等があり、和氣あいあいとしたムードの中で、両校

最後に昨年度、本年度と早稲田大学校友会鹿児島県支部、鹿児島三田会の校友皆様の絶大なるご協力を賜りましたことを、紙面を借りて厚くお礼申し上げる次第です。

つたみたいだ。

最後に大学周辺を歩いたのはちょうど二年前。鹿児島での生活やスピードに慣れていたはずの自分の体は、意外に東京の空気やスピードにすぐ馴染んだ。人込みの中を歩いたり、電車に乗つてしたりすると妙に落ち着いた。

東京の風景はちょっと見ない間に風景が大きく変わってしまうはずだが、大学や高田馬場の街周辺に限っては、ほとんど変化がなかつたせいかもしれない。街を歩く自分が旅行者やよそ者の気分ではないのが不思議な気分だった。

学生気分が薄れた今、「早稲田の街」は「元学生」をどう受け入れてくれるだろうか。

の校歌・塾歌の齊唱で締めくくつた。両校OBも親睦を深め合い、来年も必ず参加することを誓い合つて散会した。

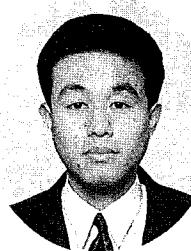
最後に昨年度、本年度と早稲田大学校友会鹿児島県支部、鹿児島三田会の校友皆様の絶大なるご協力を賜りましたことを、紙面を借りて厚くお礼申し上げる次第です。

# 私にとつての地方分権

鹿児島総合研究所

井上

剛 (H6年政経学部卒)



(2) 大都市の文化性、生活の利便性

(3) 都会における先輩や身内の存在

「井上もいよいよ都落ちか」。早稲田の友にそう言われて、私が生まれ故郷の鹿児島に就職のために帰鹿したのはちょうど九ヵ月前のことでした。

「東京というの生き残れた人にとっては誠に快適な街だよ。景気が良くなればまた人々が集まり始めるさ」というのが彼の持論でした。確かにそういう面もある、特に者者は憧れと同時にその認識していることでしょう。

鹿児島県の高校卒業就職者の県外就職率は毎年トップレベルです。私の勤める会社が近年行った定住調査によれば（鹿児島の短大、大学生、鹿児島出身の在京大学生およびUターン就職者対象）若者を都会へ駆り立てる要因として、次の三つが挙げられています。

(1) 都会のもつビジネス環境の魅

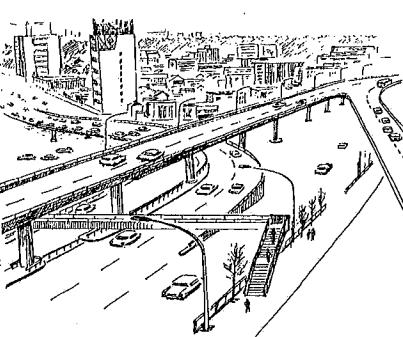
私も少々寂しさを感じてしまいます。早稲田で私が学んだことは、皆対等の立場で付き合つていこう、あるにはどうすればよいのか、を皆様と共に模索して参ります。

私は特に鹿児島市が都市と地方の魅力を併せ持ち、現在勤めていた、鹿児島にて就職しました。

「地方分権」という声があがつて、例えば東京在住の人に、「生活アメニティー（快適さ）の要因は何か」と尋ねると、「自分が豊かなこと」という項目が挙げられます。だからと言つて自然が豊かなことが生まれ故郷の鹿児島に就職のために帰鹿したのはちょうど九ヵ月前のことでした。

早稲田の友にそう言われて、私が生まれ故郷の鹿児島に就職のために帰鹿したのはちょうど九ヵ月前のことでした。

鹿児島に彼らが住むかというと必ずしもそうではありません。ましてや、都會の人間に對する私達のあまりにも低姿勢な姿を見ると、



自らの想い入れも含めて、鹿児島が若者にとつて魅力ある地域であるにはどうすればよいのか、を皆様と共に模索して参ります。

いつも何かを追い求めていたような気がする。自分はこれでいいのか、と自問を繰り返し、現状に満足するに至らぬ思いにしばしば苦しめられた。しかし、東京というまちはそういう所なのかもしれない。人がモノ、カネ、情報などすべてのものが集まっている、日本の中枢である。この大都會で、自分たち若者目の前には、無限の可能性があるが、それをやらないといふ広がつている。何かをしたい、何かをやらなければならぬといふ思い、焦燥にも似た思いに駆られていたのかもしれない。

そうは言つても、四年の間に色々なことはしてきた。テニス、映画のサークル活動もしたし、某一流ホテルでアルバイトをし、貴重な体験もした。多くの友人と語らい、飲み明かしたこともある。勿論、早稲田とは無縁の人でも羨む構わないが、私としては東京の変化を冷静に受け止めていたし、鹿児島とのギャップを感じ取っていた。翌日我々は、後楽園ウインズに行き、菊花賞の馬券を買った。結果は私にとって全く問題ではなかった。いずれにしても、鹿児島では不可能なことができたこと、また学生時代に普段やついたことを再現できることに深い意味があつた。要するにそれは学生の延長でしかなかつた。

そうである。私はゴールデンウイークに次いで、卒業以来二度目の東京を味わつたのである。何が

そこにはなかつた。

そうである。私はゴールデンウイークに次いで、卒業以来二度目の東京を味わつたのである。何が

そこにはなかつた。

私は、様々な思いを胸に秘め、今年帰ってきた。東京の凄さを知れば知る程、この鹿児島が見捨てられなくなつてくる。鹿児島を変えて、市民のために何か役に立ちたい、そう思うのは自分だけだろうか。大学での四年間追い続けたものが、今わかつたよう

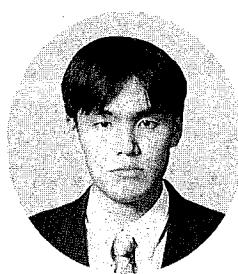
十一月四日、飛行機の窓からは、東京タワーの灯りがはつきりと目

## 東京発鹿児島行き

鹿児島市役所納税課

満吉

徹 (H6年商学部卒)



十一月四日、飛行機の窓からは、ある恵比寿ガーデンプレイスに足

自分の学生時代を振り返ると、



### 三田会 稲門会合同懇親会



懇親会が十一月二十八日、両校のOB・OG約百四十人が参加して山形屋ファミリーレストランで開かれた。

親会も今回で二回目。地元各方面で活躍するライバル校同士の校友の集いが話題となり、懇親会の模様はMBCテレビでも紹介された。

川内市民レガッタでの早慶戦がきっかけとなって始まつた合同懇親会が十一月二十八日、両校のOB・OG約百四十人が参加して山形屋ファミリーレストランで開かれた。

# クイズで早慶戦

## 第2回 稲門会 三田会 合同交歓懇親会



### 第20回記念早慶対抗ゴルフコンペ成績表

早稲田—515  
慶應—527

開催日：平成6年11月20日(日)  
会場：入来城山ゴルフ俱楽部

順位	氏名	OUT	IN	GROS	HDCP	NET
1位	大西儀朋(W)	36	40	76	4.8	71.2
2位	春田滋(W)	50	39	89	16.8	72.2
3位	川畑孝則(W)	40	39	79	4.8	74.2
4位	玉川文生(W)	44	41	85	10.8	74.2
5位	大西逸(W)	43	48	91	16.8	74.2
6位	吉田洋守(W)	45	46	91	16.8	74.2
7位	中江和彦(K)	41	43	84	9.6	74.4
8位	吉富信雄(K)	44	40	84	9.6	74.4
9位	本坊吉朗(K)	46	44	90	15.6	74.4
10位	上妻利久(K)	41	42	83	8.4	74.6
11位	田中健作(W)	46	48	94	19.2	74.8
12位	秋葉重貴(K)	46	45	91	15.6	75.4
13位	鈴木正信(W)	39	43	82	6.0	76.0
14位	内村二郎(K)	52	51	103	26.4	76.6
15位	山下明夫(K)	50	50	100	22.8	77.2
16位	大津学(W)	50	56	106	28.8	77.2
17位	増留貴朗(W)	52	53	105	27.6	77.4
18位	新村研二(K)	44	42	86	8.4	77.6
19位	正建二郎(K)	53	52	105	26.4	78.6
20位	中尾成昭(K)	56	52	108	28.8	79.2
21位	下唐泰行雄(W)	58	55	113	33.6	79.4
22位	尾堂友紀(W)	56	48	104	24.0	80.0
23位	浜田紘一(W)	61	53	114	33.6	80.4
24位	諫訪園隆(W)	54	46	100	19.2	80.8
25位	月田好彦(W)	53	49	102	20.4	81.6
26位	貴島清文(K)	54	59	113	28.8	84.2
27位	貴島和文(K)	61	67	128	36.0	92.0

## 霸者早稲田、連勝

### (通算成績七勝一敗)

であつた。

第二十回早慶ゴルフ記念大会が十一月二十日、入来城山ゴルフ俱楽部において開催された。

当日は快晴、微風という好コンディションに恵まれ好スコアが期待されたが、参加者は早稲田十五人、慶應十一人といささか淋しい大会となり、記念大会というイベントで、多くの参加を期待している両校幹事は少々拍子抜けの様子

試合開始前の両校選手の会話中に慶應側から「早稲田には二軍クラスでも勝てる」という発言があつたらしいということで、わが稲門チームは盟友慶應でも許せないこの発言に、屈辱を晴らそうと必勝を誓いあつてスタートした。

やはりその時の勢いと、勝利への執念というものは特別のパワー

を創り出すものだと思う。今回参加した十五人のチームワークは見事という外なく、早稲田パワーは爆発。結果、上位六位までを独占し、総合スコアも一二ポイントの大差をつけて大勝利を博した。

恒例となつている敗者負担による終了後のパーティは、和気あいあいとした雰囲気であったが、テーブルに並べられた料理が金持ちの慶應らしからぬ節約ぶりで、余りの貧弱さに我が方よりクレームが続出、止むなく料理を追加注文をする破目となり、一人の負担額を六千円追徴するというハプニングが起り、爆笑の渦となつた。

連続勝利の美酒もほどほどに、次回の健闘を誓い散会した。来春の二十一回対抗戦へ多数の校友が参加されることを希望する次第である。

### 報告

校友会鹿児島県支部副支部長

大西洋逸 (S30年法学部卒)

鹿児島海陸運送株代表取締役社長

編集後記

三田会との交流も深まり、今後は何か共同で企画できればと考えます。皆様のご意見もよろしく。

会報委員

吉田守久保英司  
辛島史朗大西儀朋  
宮里幸弘始良一徹

西青木亨

イベル意識も手伝つて大いに盛り上がつた。

報告・実行委員 辛島史朗  
南日本新聞社 総務局

校旗・塾旗入場の後、両校応援部OBのリードによる校歌斎唱、カレッジソング歌合戦、エールの交換と進む中、今回初めて行われた全員参加のクイズ対抗戦ではラ